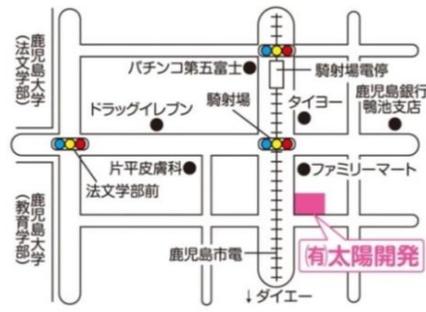


SUNSHINE

第 95号 2017年 7月発行
 有限会社 太陽開発
 鹿児島市鴨池2丁目1-12 TEL099-255-3623
 E-Mail master91@taiyou1991.com



太陽開発 検索 クリック!!



さえきビル

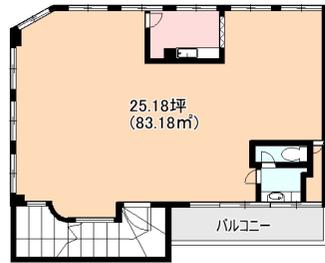
今回ご紹介させて頂くマンションは、4月より当社で管理をさせて頂いております【さえきビル】です!!!
 下荒田4丁目、徳洲会病院のすぐ横にある建物です。
 1階に約15坪のテナントと2階には広々約25坪のテナントがあり、現在どちらも募集中です! どちらも駐車場が3~5台確保でき、事務所や飲食店などの店舗用でも使用可能です♪お知り合いの方などで事務所・店舗をお探しの方がいらっしゃいましたら是非ご紹介ください(^-^)



住居用は、2K・3DKタイプのお部屋があります!
 スーパータイヨー、コンビニ、ドラッグストア、保育園が徒歩圏内にあり、子育て世代の家族や少し広めのお部屋を探している社会人の方におススメのマンションです。床も張替えをし、綺麗になっております。
 家賃35,000円から...
 詳しい詳細は、賃貸営業までお電話下さい。



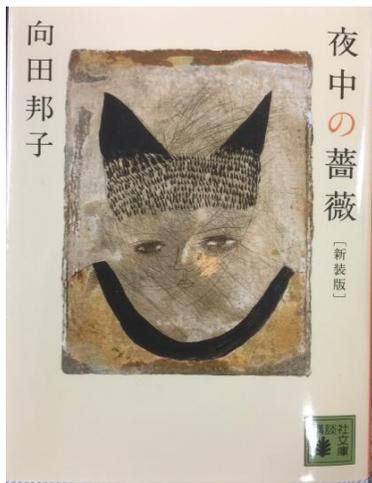
1階テナント (駐車場3台付き)



2階テナント (駐車場5台付き)



今月の一冊 No.94 夜中の薔薇 向田邦子



気に入った手袋が見つからなくて、風邪をひくまでやせ我慢を通した二十の冬以降「いまだに何かを探している」……(「手袋をさがす」)。凛とした自己主張を温かな眼差しで描く名文の数々。突然の死の後も読者を魅了してやまぬ最後のエッセイ集。

1929年東京生まれ。脚本家、エッセイスト、作家。実践女子専門学校(現・実践女子大学)国語科卒業。映画雑誌の編集者を経て放送作家になり、テレビ・ラジオで活躍。代表作は「だいごんの花」「寺内貫太郎一家」「阿修羅のごとく」「あ・うん」など。乳癌の発病をきっかけにエッセイを書き始め、'80年に初めての短編小説「花の名前」「かわうそ」「犬小屋」で第83回直木賞を受賞。しかし、翌年8月、台湾旅行中に飛行機事故で急逝。著書に『父の詫び状』『あ・うん』『新版 眠る壺』『思い出トラップ』『男どき女どき』などがある。

先日、鹿児島市のかごしま近代文学館で開催されていた「向田邦子の目」と題された企画展に行ってきました。作家・向田邦子が撮影した写真200点を展示、旅先の風景や人々の暮らしなど、紀行文に書き残した場面のショットも並んでいました。それらの紀行文も掲載されているエッセイ集『夜中の薔薇』をご紹介します。かごしま近代文学館には「向田邦子の世界」というコーナーも常設されており、そこでは彼女の肉声(留守番電話の声)も聴くことができます。作品を読んでも、展示の写真、愛用の服や家具、食器等を見ても彼女のセンスの良さが伺われます。この企画展の関連イベントとして行われた作家・角田光代による「向田作品を語る」と題したトークショーにも視聴してきました。向田邦子、角田光代、感性豊かな才ある女性をうらやましく眺める私であります。

炭火やきとり とり蔵

鹿児島県鹿児島市荒田2丁目42-15
 営業時間 17:30~翌2:00
 定休日 不定休

今回ご紹介するお店は、騎射場公園の近くにある『炭火やきとり とり蔵』さんです。当社もよく利用させていただいている焼き鳥屋さんです。騎射場は学生街ということもあり、プランに合わせたリーズナブルなコースが充実しているので学生にも大人気! この日も座敷は学生の団体が埋まっており、満席状態。私たちはカウンターに座りましたが、予約をしていなければ入れませんでした。

TEL099-250-3450

飲み放題・食べ放題 2時間3300円!!
 料理8品+飲み放題 2時間2200円!!
 飲み放題 2時間1280円!!



←注文必須な『焼き鳥の串盛り』!
 最初の注文でも悩まず頼んでみてください。安定のバラエティーに富む美味しい焼き鳥が届きます。どれを食べようか迷うのが楽しいですね。



←とり蔵さんオススメの『地鶏の炭火焼き』
 食べごたえがあってジューシーです! 相性の抜群なゆず胡椒も欠かせません。コロコロつまみやすくビールがすすみますね♪



豚キムチース 当社社員オスス



チャーハン

飲んだ後はチャーハンで決まり!

これらの写真はすべて食べ放題のメニューです。どれもすべて美味しかったです。大満足でした。鶏刺しも新鮮で、チャーハンは絶品でした。食べ放題メニューは種類豊富で悩んでしまうかもしれません。注文できなかった料理はまた次回たのんで食べてみてください。



鶏刺



からあげ



揚げ出し豆腐



廃仏毀釈

私の住まいは、中央駅より車で30分程の皇徳寺ニュータウンにあります。皇徳寺という地名は以前この地に皇徳寺という曹洞宗の寺院があったことに由来しています。現在は、皇徳寺跡の入口に仁王像らしき石物と説明看板がひっそりと佇んでいます。たまの散歩で皇徳寺跡入口を通るたびに、破壊されたいびつな仁王像を見て、なぜ明治になり廃仏毀釈が起こったのか、そして鹿児島島の廃仏毀釈が厳しく徹底された(廃仏毀釈で1066あったすべての寺院がひとつ残らず廃され、僧侶2964人が還俗された)のか疑問に思っていました。



仁王像

一般に廃仏毀釈とは大政奉還後に成立した新政府によって発せられた「神仏分離令」と「大教宣布」などの政策をきっかけに引き起こされた仏教施設の破壊などを指すとあります。



皇徳寺入口

今回、廃仏毀釈について調べたきっかけは5月24日の南日本新聞の「史実に基づき価値を伝える」と6月15日の経済新聞の「廃仏毀釈の歴史を学ぶ」を読んだことです。「史実に基づき価値を伝える」の内容は平田鞠負の宝暦治水を例に取り、治水の現地と鹿児島との間の認識が大きく乖離していく現状と、史実と異なる可能性が高い内容を歴史の面からではなく道徳の対象として取り上げ、断定的に教えることの問題を指摘している。「廃仏毀釈の歴史を学ぶ」では、鹿児島島の廃仏毀釈は仏教派閥の力を抑制するためであり、同時に藩の財政支出を抑えるための蛮行であったとある。

上記にもあるように、私は以前より、教科書の歴史や、巷で常識とされている(特に幕末より明治以降の)歴史は本当に史実に基づいているのか疑問に思っていました。

薩長連合が江戸幕府を倒し、新政府が明治政府を形成し、大正、昭和と続く中で 時の政権が自分たちに都合の良い歴史を広めたのではないかと。薩摩の廃仏毀釈は明治の「神仏分離令」より早く明治以前に島津斉彬の令により 寺院の梵鐘、仏具類を引き揚げて銷潰して、兵器だけでなく天保銭(賈金)の原料 にしたとの証言もあるそうである。このことより、幕末になり、外国の脅威が迫り(薩英戦争を経験)、同時に討幕の気運が 盛り上がってくるにつれ、平田篤胤の影響もあり、薩摩藩全体の寺院関係の金 銭支出を おさえ、兵器と軍資金がとにかく必要になった為、経済的理由で徹底した廃仏毀釈の流れ になったのではないかと。それにしては、欽明天皇の時代に仏教が大陸より伝来して、約1300年、日本の国で文化的、精神的にも、日本の風土を創ってきた仏教が短期間で抹殺されたということは、ひょっとして仏教指導者にも問題があったのかもしれない。



福昌寺跡

【川越】